

北軽井沢の森の縁にたたずむニホンジカのメスです。撮影は5月下旬で、この時期のメスジカの多くは出産を目前に控えています。写真の個体も腹部が大きく張り出しており、体つきから見ると妊娠後期にある可能性が高いように思われます。ニホンジカの出産は地域差がありますが、本州中部では5月下旬から7月頃にかけて行われることが多く、北軽井沢でも初夏になると親子連れの姿が見られるようになります。大切な時期を迎えた母ジカは、多くの栄養を必要としながらも体が重くなり、行動がゆっくりになることがあります。

この個体も、森から牧草地へ出てきたあと、こちらの存在に気づいていながら慌てて逃げることはありませんでした。一般にニホンジカは警戒心が強く、人の気配を感じると素早く立ち去ることが多い動物です。しかし妊娠後期のメスでは、体力を温存するためか、あるいは急な動きを避けるためか、動作が緩慢に見えることがあります。このシカも耳をこちらに向けながら、しばらくその場でじっと様子をうかがっていました。その姿は、警戒しながらも落ち着きを失わない、どこかカモシカを思わせる雰囲気でした。

白く大きく目立つ尾の周囲の毛は、森の薄暗い背景の中でも鮮やかに浮かび上がっています。新緑に包まれた北軽井沢の森は、これから生まれてくる子ジカにとって最初の生活の場となります。母ジカは出産後、草むらや林床に子を隠しながら育て、数週間をかけて少しずつ行動範囲を広げていきます。この写真は、厳しい冬を乗り越えた高原の命が、次の世代へと受け継がれていく直前のひとときを捉えた一枚です。静かなまなざしの奥には、まもなく始まる子育ての季節が映し出されているように感じられます。

(2026年5月下旬／北軽井沢)

